

普及活動情勢報告（平成 30 年 5 月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

ルナピエナスイカ大玉「目慣らし会」を開催



4 月 25 日に JA 土佐香美夜須支所スイカ部会が、大玉スイカの初出荷に合わせた目慣らし会を行い、生産者全戸（5 戸）が参加しました。

目慣らし会では、全員で規格を確認し、果実外観、糖度、食味検査を行い、果実内容・選別のレベルの統一をはかっています。

農業改良普及課からは、病虫害発生状況や、今後の管理について説明しました。

今後、農業改良普及課では、環境制御技術の高度化や栽培管理技術の徹底を図り、スイカの安定生産に向けて支援していきます。

アザミウマ類の飛散防止！キュウリ栽培終了時の対策勉強会の開催



5 月 9 日に JA 土佐香美きゅうり部会の生産者 4 名が参加し、キルパーを使った古株枯死処理によるミナミキイロアザミウマ(黄化えそ病を媒介)防除の勉強会を開催しました。

生産者からは、キルパーのかん水方法や処理期間、ミナミキイロアザミウマの飛び出し抑制効果、古株の枯死などについて質問があり、生産者同士でも活発な情報交換を行っていました。

今後も農業改良普及課は、JAや部会と連携し、簡易で安定した効果のある防除技術を普及していきます。

露地文旦部会現地研修会



5 月 11 日、JA 土佐香美露地文旦部会が現地研修会を開催し、生産者 17 名が参加しました。

農業改良普及課は、前作の振り返りと今作の管理で注意する点を気象データを交えて説明しました。香我美地区の寒気がたまりやすいほ場では、今年の 2 月の寒波によって、落葉、枝枯れ等の寒害が発生したため、現地ほ場では寒害で弱った枝の切り返し剪定の実習を行いました。

寒害対策について生産者の関心は高く、剪定の程度や切り戻す位置を詳しく質問する等、活発な現地研修会となりました。

農業改良普及課では、今後も露地文旦の生産安定を目的に部会活動を支援します。

青年農業士中央東ブロック協議会の新旧役員会が開催されました



5月9日、振興センター会議室で開催された本年度第1回ブロック役員会には、11名が出席しました。

会では、本年度は役員の入れ替えも多かったことから、普及課より役員の役割について説明を行いました。その後、新たな農業士の推薦候補者や本年度の事業計画などについて具体的な実施時期や内容について熱心に協議がなされました。

高知県野菜の県外PR活動については、「学校だけでなく新たな対象を探索しては？」や「食へのこだわりのある京都青果はどうか？」など積極的な意見が出され、本年度の活動の柱として「高知県野菜のPR活動」を実施することが決定されました。

農業改良普及課は、引き続き青年農業士の活動がスムーズに実施できるよう、関係機関と連携をしながら支援していきます。

オクラ品目別現地検討会が開催されました



5月21日にJA南国市、JA長岡管内でオクラ品目別現地検討会が開催され、生産者や関係機関など60名が参加しました。農業改良普及課は、資料作成の支援や当日の運営補助を行いました。

情報交換会では、各JAの予冷温度が異なることから「オクラに適した温度に統一することで、品質向上目指していこう」などの声が聞かれました。

農業改良普及課は、県内の各産地と連携して収量向上や品質UP、市場事故を減らせるような取り組みを支援していきます。